

ことばの命

言語史を生きる私たち

話題提供 **沢木 幹栄**さん (信州大学名誉教授)

日 時 **1月13日(土)** 午後1時30分～3時30分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 1-1室** 参加費 200円

※ 電話での事前申し込みが必要です

ことばは変化するものです。夏目漱石の小説は今から100年以上前のものですが、現代の言葉と違っています。古今集、万葉集と時代をさかのぼっていくにつれ、言葉の違いは大きくなっていきます。

このようなことばの歴史を「言語史」と言います。ものごころついてから60年以上になりますが、私は日本語が変わっていくさまを目撃してきました。新しい語や用法が生まれたり、昔使われた言葉がひっそりと使われなくなったのを見てきました。我々は言語史の一部を生きていると言えます。

言葉が変化しつつあることを実感した経験は誰でもあるはずです。若い人の使う言葉が自分のと違うことに気がついたとき、あるいは自分より年配の人が自分の使わない言葉を使うのを聞いたときなどです。長く生きていると若い人とのギャップに気づくことが多いのですが、若い人でも小さい子供と言葉が違ってきているのに驚くことがあるはずです。

今回は「ほぼほぼ」「世界観」「立ち上げる」などの言葉を材料にことばの変化と私たちの関わりについて考えてみたいと思います。

沢木幹栄(さわき・もとえい)さんは1950年東京生まれ。都立高校在学中に比較言語学という学問があることを知る。東京大学文学部言語学科卒業、同大学院修了。国立国語研究所研究員として全国で方言調査、東京語のアクセントの世代差などの研究を行う。信州大学人文学部文化情報論講座で教育を行うかたわら奄美方言の研究を行う。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎35-6226 FAX 33-9986